

西諸広域行政事務組合の概要

(広域市町圏)

西諸広域市町圏の概要

本圏域は宮崎県の中西部に位置し、東は西米良村・綾町・宮崎市高岡町、西は鹿児島県、南は都城市、北は熊本県に接した地域で、東西47km、南北31km、面積931.47km²であり、中心市である小林市は、宮崎県庁所在地から46km、宮崎空港及び鹿児島空港から1時間内に位置する。

気候は、夏期に暑く冬期に冷え込む内陸型の温暖多雨地域で、農畜産業と生活環境に適した自然条件に恵まれている。

河川は、小林市とえびの市を境として大淀川水系と川内川水系にわかれ、東部は、小林市須木から本庄川及び浦之名川が綾町を貫流し、小林市から岩瀬川が小林市野尻町と都城市高崎町を貫流、高崎川が高原町に端を発し、それぞれ下流の大淀川に注がれている。

西部は、川内川が九州山脈を源にして、えびの市の中心部を流れ鹿児島県へと注いでいる。

周辺の山岳地帯は、森林資源が豊富で多量の林産物を産するほか、霧島屋久国立公園の「えびの高原」、火口湖として知られる「御池」、自然美の景観を誇る「大幡山周辺」、県立公園の「矢岳高原」、人造湖の「岩瀬ダム湖・綾南ダム湖（小野湖）」、全国名水百選に選ばれた「出ノ山湧水群」、その他「京町温泉郷」など観光資源も豊富である。

また、岩瀬川の小林市と小林市野尻町境には絶滅危惧種の水草「オオヨドカワゴロモ」が世界唯一自生しています。

交通網は、JR吉都線・JR肥薩線・国道221号線・国道223号線・国道265号線・国道268号線が縦横を走り、食糧供給基地としての流通拠点でもある。

また、高速自動車道は、加久藤トンネルも複線化されたことに伴い、えびのIC・小林IC・高原ICの3ヶ所のインターチェンジを持ち、「宮崎県の西の玄関口」としても、重大な拠点となっている。

(平成24年12月31日現在)

圏域内における人口・世帯の推移

本圏域の人口は、昭和30年頃には12万人を超えていたが、その後毎年減少し、国勢調査人口で昭和45年94,185人、昭和50年90,754人、昭和55年92,792人、昭和60年94,242人と各構成市町村でも微増減を繰り返していたが、平成2年の国勢調査人口では92,290人と小林市を除く他の市町村は減少しはじめ、平成7年の国勢調査人口では90,319人、平成12年の国勢調査には87,857人と9万人を割り込み、平成17年の国勢調査人口では、83,522人、平成22年の国勢調査には79,908人と8万人を割り込み、全構成市町村で年々過疎化、少子化により減少している。

一方、世帯数については国勢調査の昭和45年25,463世帯、昭和50年26,647世帯、昭和55年28,530世帯と年々増加してきており、昭和45年国勢調査時1世帯当たり平均3.7人家族が、平成2年国勢調査では、1世帯当たり平均3人弱となり、平成7年国勢調査の1世帯当たりは2.8人、平成12年国勢調査では1世帯当たり2.7人、平成17年国勢調査では1世帯当たり2.6人、平成22年国勢調査では1世帯当たり2.5人、と著しく核家族化が進んできている。

市町村名	平成12年 国勢調査 人口	世帯数	平成17年 国勢調査 人口	世帯数	平成22年 国勢調査 人口	世帯数	面積 km ²
小林市	42,777	15,754	41,150	15,818	48,291	19,577	563.09
えびの市	24,906	9,346	23,079	9,149	21,616	9,049	283.00
高原町	11,254	3,989	10,623	4,070	10,001	4,042	85.38
合計	87,857	32,327	83,522	32,298	79,908	32,668	931.47

※平成18年3月20日小林市と須木村、平成22年3月23日小林市と野尻町が合併

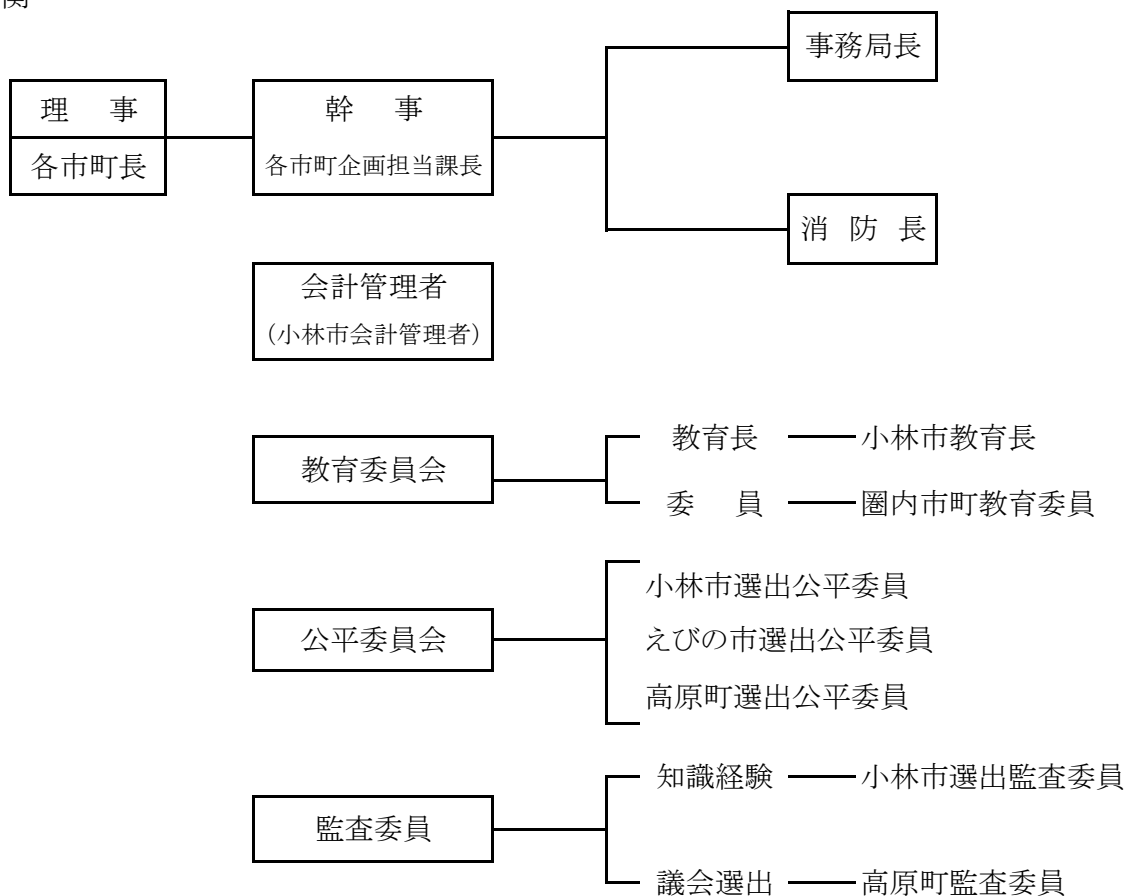
西諸広域行政事務組合の事業と組織

共同処理事業

1. 関係市町職員の合同研修
2. 常備消防(本部・署所)の設置及び管理運営
3. 視聴覚ライブラリーの設置及び運営、視聴覚教育の振興、研究指導等
4. 西諸広域葬祭センターの設置及び管理運営
5. ごみ処理施設の設置及び管理運営

組 織

①執行機関



②議決機関 (議員定数11名・構成市町議会議員)

